



フードバレーとがち

新たな取り組みにチャレンジしています



村上 隆司

農事組合法人
共働学舎 新得農場

心身に悩みを持つなど社会に居場所をみつけれない人たちとともに自労自活をテーマに、新得町で自然の摂理に合わせた農業に取り組んでいます。

生産者と消費者が幸福を共有できる地域づくりを目指します!!

■高品質農産物の生産を広げます。

後継牛育成や自給飼料の試験を始め、高品質農産物生産への転換技術を蓄積し、地域に共有していきます。

■参加型認証 (PGS) を取り入れた認証方法を目指します。

第三者による認証ではなく、消費者が直接検査をする参加者認証 (PGS) を導入し、消費者が畑を訪れ生産者と交流するなど、生産者、消費者共に納得できる農業を目指します。

いまの課題は？

■国際的な有機農産物の認証制度に「デメター」がありますが、日本では認知度が低く、情報や手法が不明です。

■生産現場と消費者の距離感を縮め、GDP (国内総生産) では計りきれない人々の幸福を高めていくこと (国民総幸福量) が必要です。

※デメターとは最古の農産品保証制度で「バイオダイナミック農法」を基本とし、地域性を保証するもの。



デメター認証は世界46か国に広がる認証制度。十勝にもデメター基準取得への取組みが3農場ありますが、取得にはまだ至っていません。

チャレンジ実現に向けた研究内容は？

フランス・スイスを訪問し、国際バイオダイナミック協会への訪問や、協会が推薦する生産者がどのように農業を実践しているかを調査しました。

酪農をバイオダイナミック農法に転換するヒントを得るために、フランスの酪農家を訪ねました。技術的な部分でたくさんのヒントをいただきました。



スイスにある本部を訪問。共同代表理事のJean-Michel Florin氏と懇談しました。「食資源を生み出すのが農業であって、認証ラベルを手に入れることが目的ではないということを忘れないでください」と言っていました。

野菜農場、ワイン醸造農家などを視察しました。例えばワイン醸造農家は牛を持っていないが、隣の農家から堆肥をもらって使用するなど、近隣の酪農や畑作農家と有機物循環の連携を行っていました。



フランスの市場の活気に驚きました。デメター認証制度はあるけれども、市場での売り手と買い手の直接のやりとりこそが、農作物に対する信頼を生み出していると感じました。



フランスの人たちは、自分たちの日々の生活を大切にしている、楽しく暮らすための習慣を持っていると感じました。

フードバレーとがち推進協議会の支援 (十勝人チャレンジ支援事業) を活用して、以下のテーマで調査研究を行いました。

【テーマ】 高品質農産物の生産技術と品質保証制度の確立

十勝人チャレンジ支援事業とは？

新たな取り組みにチャレンジする人を支える事業。単なる視察旅行ではなく、自身の経営課題を再認識し、その課題解決のために何が必要か調査研究を行い、実践していくものです。